

3 . 気管支粘膜病変を伴った成人水痘肺炎の一例

大分県立病院呼吸器・血液内科

串間尚子、中本貴人、橋永一彦

水之江俊治、山崎 透

今回我々は、成人水痘に気管支粘膜病変を伴い、気管支肺胞洗浄液から Varicella zoster (VZV) DNA が検出された症例を経験した。

原発性水痘肺炎は小児には極めて稀であるが、成人では基礎疾患のない症例に限っても16.3-50%の合併率が報告されている。その診断は、水痘疹、水痘疹からのウイルスの分離、胸部単純写真、水痘患者との接触歴、VZV 抗体価の上昇などでなされる。気管鏡検査は確定診断のために必須ではないが、発症後早期に気管支鏡検査を施行し粘膜病変を認めた症例は報告されており気管支粘膜病変は皮膚病変と連動するとされている。本症例も発症後早期に気管支鏡検査を行い粘膜病変が確認された。気管支粘膜病変から VZV 抗原は検出されなかったが気管支肺胞洗浄液から VZV - DNA を証明し、発症後早期の粘膜所見や気管支肺胞洗浄は確定診断の一助となると考えられた。